

えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 160 号	2014年11月25日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	-------------	---

1. 活動報告（事務局 記）

—10月25日（月）10時からハゼかけの稲を”こぎ”ました。こいだ粃は粃袋で10袋ありました。玄米にして3俵半くらいだろうとの事です。

25日の参加者は 今井・吉富・渡辺・工藤・松本・河本・原田マでした。

—10月28日（日）午後 収穫脱穀した粃を乾燥し臼ひきが終わりました。

収穫量は玄米212kg3俵半と2kgでした。昨年より1袋(30kg)と2kg多く、今までの2番目の出来でした。

—11月2日（土）宇部祭りと重なりましたが、14名の参加で維持活動が出来ました。

①修復作業：湿地帯散策橋の腐食箇所の撤去とU字溝を使った飛び石散策道作成しました。

②エコアップ：合わせて散策橋周囲のスゲの間引きを行いました。

※ 宇部シュワリングネイチャーの会松田会長による11月度にビオトープで行う「里山の暮らし」について説明がありました。山口県レクリエーション教会（松田さん兼任会長）がビオトープ南側の竹林を利用した整備とレクリエーションについて国の補助が決まればスタートする旨話がありました。

赤マムシを湿地帯にて見つけ処分いたしました。今一步間違えばかまれるところでした。

—11月21日（金）16時より22日の「里山の暮らし」の行事機材（台唐臼・石臼・千歯・足踏み脱穀機・唐箕等）を借用・運搬しました。

—11月22日（土）親子自然観察隊12名（親5・ジュニア含む子供隊員7）、学生13名（会員2名ベトナム・韓国留学生含む11名）、二俣瀬小学校高橋校長、つくる会会員16名の合計42名。内容は稲作の最終段階の脱穀から精米までの作業を昔ながらの器具（千歯・足踏み脱穀機・篩・手ミイ・唐ミイ・台唐臼・石臼等）にて経験して、きな粉餅にして食しました。学生を含む子供隊員に稲わらを使った縄を編む事をトライしました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎見学者

—12月13日 山口レクリエーション協会さんの「竹林で遊ぼう」でビオトープ南側の竹林の切り出しを行う予定？

◎行 事

—12月6日（土）収穫祭（餅つき）親子自然観察隊・二俣瀬子ども会

—12月20日（土）収穫祭Part-2（ハス堀） 反省会

3. 来訪者の声

今月はありません。

4. 会員の声【エビ類の救出作戦】（原田 満洲夫 記）

当つくる会の反省会を兼ねてハス堀を行う予定で蓮田の水抜きを早目に行いヌカルミをなくそうと思いました。注水を止め排水口を開け乾燥の準備をしてあくる朝調査に行きました。ところが残った水たまりの表面がプチプチ波立っているではありませんか。何と沼エビとスジエビ莫大な量、息も絶え絶えあえいでいるではありませんか。

これはしまったと緊急で排水口を閉め注水を開始しました。何とかほとんどのエビ類を助けることが出来た模様で一安心。その後ハス堀を行うか再検討をしましたが、小さいほうの蓮田のみ行う事にしてぬかるみに入りエビ類が排水口に行きやすい様に誘導溝づくり水を少量流して網ですくい取ることにしました。バケツに5杯沼エビ・すじエビを救出し、ため池ゾーンに移してやる事が出来ました。十数匹二俣瀬小学校の水槽（近辺の魚）に婿入りしてもらいました。

ここ2年ハス堀をしなかったおかげで蓮田のエビ類が多量に増殖したのではないかと思います。ほかにはドジョウ数匹と20cm位のドンコ2匹も捕獲し、ため池に移してやりました。

5. 親子自然観察隊（里山の暮らし）（原谷 一誠 記）

他の行事と重なってか子供の参加が少なく、親子自然観察隊は4家族で、二俣瀬小学校は校長先生のみでした。その代わりに山大工学部の学生が留学生も伴って応援に来てくれました。まず千歯や足踏み式脱穀機で稲を脱穀し、唐箕で選別して粳にしました。次に台唐と臼で粳摺りをし、唐箕で選別して玄米にしました。精米にするには、もう一度台唐と臼で行いますが、今回は玄米までとしました。一方女性会員は、石臼によりモチ米を粉にしてダンゴを作り、大豆を炒ってその後粉にしてきな粉を作り、そしてきな粉餅にしました。次に稲の藁を使って皆で縄を編んだり輪飾りにしたりして、会員によりしめ縄作りをしました。しめ縄は東屋に掛けました。最後に皆できな粉餅を食べて終わりました。天気も良くて、親子さんや学生さんも十分楽しめたと思います。



千歯による脱穀



足踏み式脱穀機による脱穀



唐箕で選別



台唐と臼で粳摺り



石臼でモチ米を粉に



稲藁で縄作り

親子自然観察隊（11月22日 里山の暮らし）に参加した親子の感想

★藤井哲平くん

おもちがおいしかった！

★藤井康平くん

せんばこぎ？はすぐにお米がとれて簡単にできた。とうみ？（風でとばすの）も調節してもらっていたので、簡単だった。石臼は重かった。昔のひとは全部手作業で大変だったと思った。昔の農家の人の体験をして、おもしろかった。おもちがおいしかった。

★藤井君のお母さん

昔は本当に手間がかかることをしないと、いろいろなものを美味しく頂けないんだなあをつくづく感じました。手動の機械もどうやって考え出したのか、けっこう緻密な計算がされていたのか、感覚や知恵でつくられたのか、とても興味深いものでした。

きな粉の引き立ては香りもよくて、「これは本物だ！」と、いつも食べているのはあれは何だ？と主人も大絶賛でした。（急におじゃましてありがとうございました m(__)m）

★下川航平くん

わらで縄を作るのは難しかったけど、楽しかった。おもちがおいしかったです。

★下川拓実くん

昔の人の苦労がよくわかった。縄を作るのが大変だった。石臼で粉を引くのが楽しかったです。

★下川君のお母さん

昔の人の知恵と苦労がよくわかりました。

★戸成晃大くん

石臼で粉にして、こねてダンゴを作ったのが1番楽しかった。きな粉ダンゴがかたかったけどすごくおいしかった。

★戸成晃大くんのお母さん

毎年参加させてもらっているのですが、里山のくらしは好きな行事の一つです。

春の田植えから稲刈り・脱穀。また石臼で少量ずつもち米を引いて団子を作ったり、日頃出来ない事が体験出来てとても楽しかったです。でも、毎日火をおこして食事の支度をするのは現在では難しく、昔の人はつくづく大変だったなあと思いました。会員の方とも楽しくお話が出来て親子共々とても楽しい時間を過ごせました。ありがとうございました！

(里山の暮らし)に参加した山大工学部学生の感想

★(長見)

今回、昔ながらの方法で脱穀作業をさせていただきました。機械化が急速に進んでいる現代でも地域の方とこのような経験が出来、とても嬉しく思います。

★(内田)

老若男女国籍問わず、交流できたことを嬉しく思います。今後お互い刺激を与え合っていきましょう！

★(岡本)

小学生から大人そして大学生、留学生までが和気藹々と稲作を学ぶ貴重な時間を過ごせました。このような場での特別だと感じます。また、宇部市の誇れる豊かな自然環境があるからこそできることではないかと思います。

★(SHIN)

韓国と似ていながらも違った点が見えて面白かったです。

★(井手口)

丁寧なご指導のもと、今日は脱穀作業をさせて頂きありがとうございます。とても楽しい良い経験になりました。

★(岩野)

初めて脱穀体験をさせてもらって、昔の人はお米を食べるためにこんなに時間をかけなければならなかったことに驚きました。また、今の暮らしにとっても感謝しなければとも感じさせていただきました。

★(畑野)

機会に頼らない、昔ながらの方法で脱穀を体験できてとても楽しかったです！お米がもっと好きになりました！

★(唐澤)

食べ慣れた白米ですが、それが出来るまでには大変な苦労があることを再認識することができた貴重な体験でした。

この経験を通して学んだことを自分のまわりの人々に伝えていきたいと思います。

★(Hieu)

この間、日本の農業行事の脱穀を体験させていただいて、ありがとうございました。この場で、子供たち、優しい日本の方々にも出会い、楽しく有意義な休日を通しました。

6. ビオトープ関連：「山口県のトンボたち」 （管 哲郎 記）

(23) マンシュウアカネ *Sympetrum vulgatum imitans* Selys

トンボ科 <アカネ属（アカトンボ属）> *Sympetrum* Newman

このトンボはあまり一般的でなく、記載をためらったのですが、2010年10月1日に県内初記録として発見したので、紹介しておきます。

国内では青森県、石川県、富山県の記録しかなく、中国北東部、サハリン、東シベリアなどより飛来してくるようです。9月、10月に日本海側で発見されています。

筆者は9月になると南方より飛来してくる迷トンボや迷チョウを追って下関や長門海岸へ毎年出かけています。たまたまその日は下関市の吉母海岸やその付近を探していましたが、小さな川のコンクリート護岸に止まっている本種を発見しました。その日はチョウもトンボもあまり見ず、”とりあえず”のつもりで撮影しておきました。

撮影を終了したのち手帳に撮影したトンボの名前を記録しようとしたのですが、これまでに見たことのないトンボのような！ということに気づき、大急ぎで網を持って採集に戻ったのですが、すでにトンボの姿は消えていました。1時間ほどうろろその付近を探しまわりましたが見つかりません、やむを得ず搜索をあきらめて帰りました。

このトンボの特徴は、目玉を含めた顔全体が茶色をしていることです、胸も茶色ですが、ほかのアカトンボでこのような配色は見当たらず別種と気づきました。当然、一般の図鑑にも写真付きでの記載がされておらず自分で同定ができませんでしたので、トンボ仲間を通じて専門家に写真を送り「マンシュウアカネ♂」と同定をいただいたものです。

その年の「山口むしの会」の会報に発表して、山口県初記録と登録されましたが、標本にできなかったのが返す返す残念です。（昆虫の初記録登録の場合には、”標本”が必要です。誤同定を避けるためです）。



発見した小さな小川



マンシュウアカネ♂

7. 会よりの連絡事項

1) 小学生対象の行事が多くて、我々のとても有意義な体験学習会も参加できない子供たちに残念としか言いようありません。

22日の「里山の暮らし」には親子自然観察隊も親隊員や山大の工学部学生もたくさん参加いただき自然環境学習の場にふさわしい活動になりました。12月6日はイベント稲作体験の最終体験です。餅をつくって食し打ち上げをしましょう！。

8. 編集後記

12月2、3、4日と、平日ですが仕事を休んで(!)、インタープリティブデザインワークショップという研修に行ってきます。講師のステイブ・バン・メーターさんは、世界各国の支部やたくさんのボランティアを擁するNGO「地球教育研究所」を主催されていて、大学で環境教育・インタープリテーションを教える方だそうです。なんかとてもすごそうですが、何度かお話をお聞きする機会がありましたが、長くてとてもきれいな白いおひげをはやした、おとぎ話にでてきそうな素敵なお紳士という印象でした。研修場所は徳山動物園です。お客さんが動物園に来てから帰るまで、どんなふうにしたら楽しんでもらえるのかを、ステイブさんならではの考え方で受講者に伝え、私自身も考えるきっかけを得られるのでは？ととても楽しみにしています。この方のお話でとても惹かれるのは、いろいろプログラムを考える中でも、それは自然に対する確かな知識に基づいたものであることを大切にされている点です。ついつい催し物では参加者が楽しめるようにといろいろプログラムに凝ってしまいがちですが、本物の自然にいて見たり触ったり知ったりすることが一番だし、それが催しを考える時の本当の目的でしょ！と初心にかえった気持ちになります。ビオトープの親子自然観察隊も、本物にふれ、いろいろなことを教えてもらえる、とても貴重な体験だと思います。うちの子供が小学生になったら、ぜひ正式に参加させて頂きたいです。よろしくお願い致します。

(大野 靖子 記)